





## 別売品や斡旋品を使用した据付方法

### 1. 据付棧 (RB-I01K2またはRB-I02K2)

**回り縁と鴨居を利用する場合** 据付棧 (別売品) をお使いください。

- 据付棧上・下を回り縁下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付棧に同梱の取付ねじ (φ4×10L) で据付板を仮止めます。
- 仮止めた据付板と据付棧を②据付板取付ねじ (φ4×25L) で回り縁と鴨居へ固定します。
- 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかりと締め付けます。
- 据付板の最上部と下部の引っ掛け部付近は必ずねじ止めしてください。

取付ねじ(φ4×10L)(据付棧に同梱) ②据付板取付ねじ 回り縁 据付棧上 据付棧 鴨居 据付板 据付棧下 鴨居

据付棧(別売品)は、②据付板取付ねじ(φ4×25L)にて回り縁と鴨居に固定してください。

**お願い**

- 据付板を据付棧上と据付棧下で重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付棧下の裏から止めてください。(六角ナットはRB-I01K2、I02K2に同梱しています。)
- 据付棧は上と下を使用し、据付板取付ビス (型紙に記載) で取り付けてください。このように取り付けられない場合は、ビビリ音が発生することがあります。
- 据付は、強度を確認し、重量に十分耐える場所に確実に行ってください。

### 2. アース棒 (RB-Y12)

**室外ユニットからアースを行う場合** アース棒 (別売品) をお使いください。

アース棒

アースねじ (カバーの中にあります。)

### 3. その他

**降雪・寒冷地域の据付**

室外機を積雪から保護するため、防雪屋根を取り付けた高置台に室外機を据え付け、防雪フード・防雪パネルを取り付けてください。ドレン排水は「タレ流し」にしてください。

室外機高置台使用例

(27cm) (20cm)

防雪屋根 防雪フード(背面用)

正面

アンカーボルト

高置台

構造ライン

50cm以上

- 横ラインより50cm以上に据え付けてください。
- 二重置きはしないでください。

## 据付工事完了後、必ず実施してください

### フィルター動作チェックと試運転

**フィルター動作チェック**

- 表面の注意事項とシール・テープをすべてはずしてください。
- コンセントに電源プラグを差し込みます。
- リモコンを室内ユニットへ向けて [ON] を10秒以上押し、次の項目を確認してください。

①室内ユニット表示部のランプが1個ずつ順番に点灯し(右図)、約3分間フィルター試運転を行います。

②フィルターの動作が正常のときは、ランプが消灯します。フィルターの動作が異常のときは、お手入れランプが早く点滅(1秒間に5回)します。

フィルター動作チェック中にお手入れランプが早く点滅したときは、[ON] を押し電源プラグを抜き、下の「フィルター組込確認ポイント」をチェックしたあと再度②項目からフィルター動作チェックを行ってください。

4. ランプの消灯を確認し完了です。

**試運転**

- リモコンの [冷房] または [暖房] を押します。
  - 冷房の場合、[設定] で設定温度を17℃にします。
  - 暖房の場合、[設定] で設定温度を30℃にします。
- 約3分後に室外ユニットが運転を開始し、冷風(暖房のときは温風)を吹き出します。
- [停止] を押し、運転を停止します。

**3分間再起動防止タイマーについて**

エアコンを起動するときや運転を切り替えたときは、約3分間運転を始めません。これは本体保護のため故障ではありません。

**■フィルター組込確認ポイント**

- ①フィルターカバーを開いて、エアフィルター下端がブラシとツメの間に差し込まれていることを確認する。
- ②フィルターカバーを確実にロックする。

フィルターカバー

エアフィルター取り付け断面図

フィルターカバー

エアフィルター

確認

ツメ(6ヵ所)

ブラシ

ロック位置

## こんなとき

室外ユニットが運転せず、室内ユニット表示部の運転ランプとタイマーランプが点滅する

- Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。
- 電源電圧が100Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

**エアコンが誤動作する**

- 同じ部屋または、近接する部屋に2台室内ユニットを設置した場合、1台運転するときに2台同時にリモコン信号を受信し、運転してしまうことがあります。このようなとき、どちらか一方の室内ユニットとリモコンを、B設定(工場出荷時は、どちらもA設定です。)にすることで防ぐことができます。
- 室内ユニットとリモコンの設定が異なる場合は、リモコンの信号を受け付けません。

**1. リモコン側の設定**

リモコンはB設定の場合のみ「B」と液晶表示されます。「A」の表示はありません。

- 乾電池を入れて、先の細いもので「リセット」ボタンを押してください。
- 先の細いもので「点検」ボタンを押します。(表示が「00」になります。)
- [点検] ボタンを押したまま、[ON] ボタンを押すと設定温度表示部の左下に小さく「B」が表示されます。「(A)」に戻す時は、「リセット」ボタンを押してください。

**2. 室内ユニット側の設定**

①室内ユニットの前面パネルを開け、「自動運転・リセット」ボタンを約1秒押しします。(運転を開始します。)

**お知らせ**

一度B設定になると、停電・電池交換に関係なくB設定を記憶します。

②B設定したリモコンの [冷房] ボタンを押して冷房運転をします。(室内ユニットの設定は「B」となります。)

③ [停止] ボタンで停止します。

**3. 動作確認**

変更したリモコンで室内ユニットが運転することを確認してください。

**据付後の取りはずしかた (移設時など)**

**■室内ユニット**

室内ユニット下側の「PUSH」を上押ししながら手前へ引きます。

**■室外ユニット**

地球環境保護の観点から、ポンプダウン(冷媒回収)をしてから取りはずします。

**警告**

ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う

- 冷媒サイクル内に空気を混入させない
- サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす

圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などが吸引し、冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

●ポンプダウンのしかた

- ①室内ユニットの前面パネルを開き、「自動運転・リセット」ボタンを約10秒押しします。(ドレパンと音が出て冷房運転が始まります。)
- ②5分~10分後に液側サービスバルブの弁棒を開きます。
- ③更に2分~3分冷房運転後、ガス側サービスバルブの弁棒を開き、運転を停止します。
- ④液側とガス側の接続配管を取りはずします。

**■既設配管再利用のときのご注意**

- 古いエアコンを取りはずすときは必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷媒油の回収を行ってください。
- 配管厚が0.8mmあること。(JIS規格の配管)
- フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアノットの変更が必要です。
- ポンプダウンができないとき、配管内に極端に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- 新しい配管はR32対応の工具を使用してください。
- 一部の機種では、接続配管後の仕様が異なるため、このときは買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- 配管に腐食・亀裂・変形・劣化などが無い点検してください。
- 配管以外の部材(断熱材や配管支持部材など)も再使用可能か点検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。